

有志の会殿

質問に対する回答

前略

去る5月11日(月)に、私どもの事務所にFAXで質問を頂きましてありがとうございます。今回、質問状をいただきました事をきっかけに、この件に関する事を改めて深く考えるきっかけとなり感謝申し上げます。

私は、北朝鮮によって理由もなく拉致された多くの方々を救うべく「救う会埼玉」の副代表(現在は会員)として、街頭署名・募金活動や集会、埼玉県への要望活動や政府への働きかけ等々長年にわたり行ってまいりました。その活動を通じて、拉致された横田めぐみさんのご両親である横田滋-早紀江さんご夫妻をはじめ、数多くの拉致被害者のご家族と交流を持ち、その悲痛な胸の内を伺いました。また40年以上、子どもの帰りを待ちきれずに亡くなっていかれる親御さんたちの無念な気持ちを慮ると、子を持つ親として居てもたってもいられない気持ちになります。同時に、小泉元首相が訪朝して北朝鮮が拉致を認めて被害者の数人を解放した後は、一向に解決に向けて努力をしようとしないうちに苛立ちを覚えます。

併せて、その後積極的に取り組まない日本政府に対しても同様です。

ご指摘のように、日本で生まれ、日本で暮らす子どもたちに罪はないと思います。しかし、北朝鮮は核兵器開発を進め、日本海へのミサイル発射を行っています。そして、そのような報道を見るたびに私たちの拉致問題の解決を願う気持ちが北朝鮮には伝わっていない事を改めて感じざるを得ません。

また、同時にそのような指導者の考え方などを是とする民族教育を行っており、私は県の補助金を出すことに対しては反対です。

子どもたちの学習権とのことですが、私はその前に、拉致被害者とその家族の人権を大事にしたいと考えています。

貴団体は、国会議員と連携し解決に向けて努力されてこられたようですが、更に北朝鮮本国に対して、拉致問題解決を強く要望してください。

質問の回答といたしましては、

1、どの国にとっても、どの親にとっても大切な子どもたちです。

貴団体から、拉致問題が解決しないことによって起きている、埼玉朝鮮学園で

学ぶ子どもたちの現状を北朝鮮本国に伝えることで、北朝鮮が拉致問題を反省して解決に向かう力になると考えます。

2、埼玉朝鮮学園の児童生徒の学習権の侵害の前に、北朝鮮に不法に拉致された被害者や、子どもを奪われた家族の人権が侵害され続けていることを考えてしまいます。埼玉朝鮮学園に通う子どもたちは少なくとも家族と暮らしていて、突然拉致されているわけではありません。県税で補助をする前に、まずは拉致問題解決が優先されるべきだと考えます。

最後に、私も「互いの違いを認め合い、誰もが差別や不合理な扱いを受けることなく、共に生きることができる社会、そんな魅力ある埼玉県にする」事の趣旨には賛同します

しかし、私は、その手段・方向性などは明らかに貴団体とは異なると考えています。これは私のこれまでの人生経験や職業体験、これまで貫いてきた人生哲学によるものです。ご希望に沿える回答ではございませんが、その点ご理解いただければ幸いです。結びに、貴団体の今後益々のご発展をお祈りいたします。

草々

埼玉県議会
議員 岡重夫